

地理B

第1問 問3 「3」

事象の背景を論理的に理解できているかを問う問題で、各学力層で差がついた

問3 ハナエさんたちは降水の季節的特徴について興味を持ち、図1中の都市DとEを比較するために3月～5月、6月～8月、9月～11月、12月～2月の4つの期間にわたって降水量の割合をグラフにした次の図3を作成した。図3中のカとキは6月～8月または12月～2月のいずれかである。カの期間と、都市Eのキの期間の降水に影響を与える要因との正しい組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。

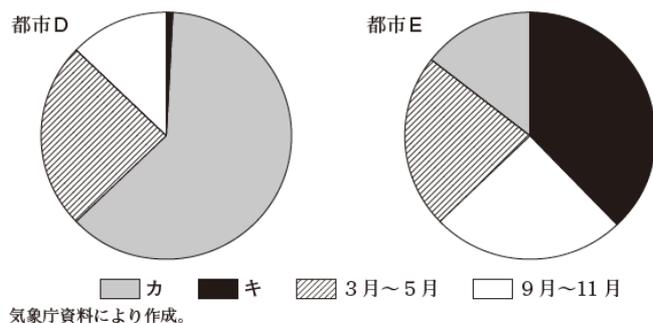
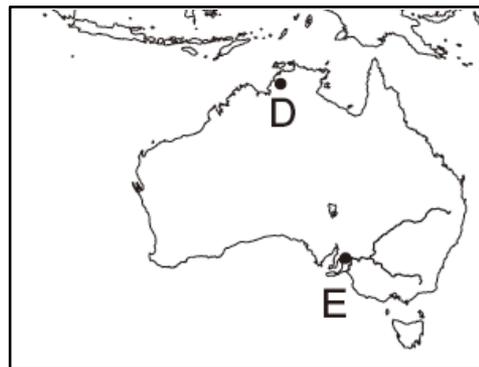


図 3

	カの期間	都市Eのキの期間の降水に影響を与える要因
①	6月～8月	熱帯収束帯
②	6月～8月	前線帯の接近
③	12月～2月	熱帯収束帯
④	12月～2月	前線帯の接近



第1問 問3 「3」

正解率	33.4%
SS75～	85.2%
SS70～75	71.9%
SS65～70	63.1%
SS60～65	51.7%
SS55～60	42.2%
SS50～55	34.3%
SS45～50	27.9%
～SS45	19.1%

2022年度第1回ベネッセ・駿台
大学入学共通テスト模試
「地理B」

受験者数:	106,958人
平均点:	48.0点
標準偏差:	15.1

地理 B

第1問 問3 「3」

事象の背景を論理的に理解できているかを問う問題で、各学力層で差がついた

結果分析

2都市の位置と、降水量の季節的特徴から、その背景を考える問題で、各学力層で差がつかしました。

円グラフから、2都市の降水量の季節的特徴を読み取った上で、それぞれの都市の位置から降水量の多い時期とその要因を判断する問題でした。都市の位置から気候区と降水量に影響を及ぼす要因を想起できる正しい理解(=知識)と、グラフに示された具体的な降水量の特徴を関連づける考察力が求められました。知識、資料読解の技能、背景を考察する力の3つがすべて必要とされたため、各学力層で差がついたと考えられます。

指導のご提案

断片的な知識は身につけていても、それを具体的な地域に応用したり、逆に模式図など抽象的な概念に応用するまでの力はまだ十分ではないという時期だと思われます。これからの2か月で、「知識の使い方」を身につけていくためには、実践的な問題演習を重ねるなかで、特に誤った設問に対して、「なぜ、そうなるのか」を考える際に、「どこに着目するのか」という視点や、「他と比較して考える」という視点で復習をすすめることが大切です。

また、本問のように、共通テストでは、図やグラフ、表、文章など複数の資料が示され、それを組み合わせて判断する出題の増加が予測されます。上記の観点で、資料を読んでいくことが、資料の着眼点を見つける力の育成につながります。